

# 山行報告

## 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山口 博

山名	鎧岳・兜岳・古光山		山行名	例会		
ルート	5日新田辺—曾爾横輪—登山口—兜岳—鎧岳—登山口—お亀の湯—曾爾青少年自然の家 6日曾爾青少年自然の家—長尾峠—後古光山—古光山—フカタワ—曾爾高原—新田辺					
山行日	11月5日～6日		天候	晴		
参加者	リーダー：山口 後藤 樋口 村上 山下 合計：6名 サブリーダー：佐坂					
 <p>朝礼</p>	コースタイム					
	地名		時：分	地名		時：分
	5日 新田辺 曾爾横輪	発	6:00	6日曾爾高原 登山口	発	9:10
		着	8:20		着	9:30
	中道登山口 兜岳	発	9:10	長尾峠 後古光山	着	10:25
		着	10:10		着	11:20
	兜岳 峰坂峠	発	10:30	古光山 "	着	12:30
		着	11:10		発	13:00
	鎧岳 登山口	着	12:00	フカタワ 曾爾高原	着	13:25
		着	14:00		着	14:30
お亀の湯 曾爾自然の家	着	14:30	" 新田辺	発	15:30	
	着	16:00		着		

### 山行報告

年間計画では11月2日3日と成って居ましたが文化祭と重なったので平日の5日6日に変更しました。

連絡網で案内しましたが、参加者が日帰りを含めて10名と成り、中止も考えましたが佐坂さんが車を運転してくれる事で実施し、日帰りの方はお断りしました。

女性が一人でキャンセルして男6名と成りました。

曾爾青少年自然の家を拠点にして3山をゆっくりと登山を楽しみました。

新田辺を6時に出発し曾爾横輪には8時20分に到着しました。登山口の目無地藏から自然林の緩やかな登りを過ぎると岩場で、ロープも有り急登で兜岳山頂には登山口から1時間20分で10時30分に到着しました。素晴らしい天気です。頂上からは北に鎧岳、前方に曾爾高原や俱留尊山や遠方に大洞山、南に明日登る古光山などが望めます。

コーヒータイトで30分の休憩をして鎧岳を目指しました。峰坂峠まで急降下して鎧岳には12時に到着しました。昼食後峰坂峠まで引き返し曾爾横輪への下山路から駐車地に14時に到着しました。佐坂氏が「車の



バッテリーが揚がってエンジンが掛からない！」無事に下山したのに車のヒヤリハット！ 幸い坂道に止めてあったので車を動かせるとエンジンが掛かり一安心です。



お亀の湯で温泉入浴、何時も満員の温泉も今日は幸い観光バスが止まってなく空いていて良かった。今日の宿の曾爾青少年自然の家には16時に到着しました。受付を済ませて16時50分から全体夕礼が有り参加しました。今日の宿泊者は高ノ原小学校 78名と私達6名のみでそれぞれが団体の紹介をしました。17時からバイキングの夕食後、研修室を借りて持参の飲物で20時過ぎまで懇談。

朝6時半チャイムが鳴り起床後にススキの高原を散策しました。前方に昨日登ってきた鎧岳・兜岳や屏風岩が並び朝霧が湧いて高原の朝はさわやかです。7時30分から朝礼で山下さんが国旗を掲揚して、全員でラジオ体操をしました。8時から朝食後9時から部屋の点検が有り、部屋の掃除とベットメイキング、毛布や蒲団の位置などやり直しして検査終了しました。この施設は宿泊者が次に使用出来る様にするのです。国立の独立行政法人運営の曾爾青少年自然の家は施設使用料800円シーツ代200円合計1,000円で食事代は2食1,100円で宿泊出来る。9時10分に出発しました。

ススキの原を通りお亀池から亀山まで登り、引き返して古光山に向いました。曾爾高原のススキは5年前に泊まった時と比べてススキが半減して居るのには驚きました。地球温暖化で自然環境が変化しているのか？自然が失われていくのは寂しい限りです。

峰坂峠の林道を渡ると急な登りで木の階段が続きます。尾根に出ると前方に後古光山や展望が開けます。後古光山には急な登りでロープを頼りによじ登る。古光山へは急な下りで木の根っこやロープを頼りに下山、今回の一番の難所です。久しぶりに山登りの感触を楽しみながら下山し、再度急な登りですが木の階段やロープが有り腕で体を引き上げながら登りました。12時30分に古光山頂上に到着しました。

下山は車を曾爾高原自然の家に置いて有るので縦走を止めて戻りました。急な下山ですがロープが有りますので身体を確保しながら無事に下山、後古光山に登らずにフカタワから下山しましたので楽に帰ってくる事が出来ました。

車のエンジン、朝佐坂さんが確認したら問題が無かったのに又もエンジンが掛かりません。JAFに連絡40分待ちエンジンが掛かり1時間のロスで15時30分出発し、道中は渋滞も無く新田辺には18時に帰って来ました。



新田辺で運転の佐坂さんを慰労の反省会で打ち上げ2日間の山行が無事に終わりました。

ひやりハット ありません

## 鎧岳・兜岳・古光山・後古山ハイキング感想文

樋口 修

鎧岳・兜岳と古光山・後古山ハイキングは、短い周期で変わる秋の天候の間で、幸いにも好天に恵まれた二日間だった。また、「国立曽爾青少年自然の家」に泊まったこともあり、色づきだした紅葉をカメラにおさめながらのゆとりある歩行で、スキの奥香落を十分に満喫した二日間だった。

コースは、各山とも急峻な登りと下りがあり、とてもハイキングコースとは思えないコースだったが、案内板には、「ハイキングコース」と記載されていた。

初日は、激しい火山活動の名残をのこす「鎧岳・兜岳」への登山。「鎧岳・兜岳」は2回目の登山だったが、記憶以上に急勾配(特に兜岳)で、滑らないように気を使いながらの登山だった。しかし、鎧岳・兜岳の頂上や、途中の尾根筋から、「鎧岳をはじめとする近くの山肌にはえる美しい紅葉」や「曽爾高原の向こうに広がる日本ボソ・俱留尊山等の美しい山々」を眺望でき、疲れを癒してくれた。

宿の「国立曽爾青少年自然の家」では夕礼と朝礼があり、同宿していた木津川市の高ノ原小学校5年生約80名と一緒に「お互いの団体の紹介」「国旗・校旗等の掲揚」「朝のラジオ体操」をし、久しぶりに子どもの頃に戻ったような気がした。

二日目は、後古光山・古光山への登山。後古光山・古光山は、これまで登りたいと思い続けていた山で、ハイキングの本には、「ロープを張った急登りと急下りを繰り返す、ワイルドなコース」と記載されており、期待も大きかった。今回は、長尾峠から後古光山に登りフカタワへ下り、古光山を往復するコースだった。コースは期待にたがわず、太いロープが張り巡らされており、ロープや木の根を頼りの急峻な登り・下りだった。古光山へは同じ道を往復したので、この道を無事下ることができると心配しながら登った。しかし、下りは、佐坂さんや山口さんの適格なアドバイスもあり、ロープ等で3点確保をし、慎重に下りたら、思った以上にスムーズに下ることができた。下りた後の感想は、下りより登りの方がシンドイだった。

最後に、今回の山行では、アルプスの岩山に登ったような満足感を感じた。

